

# 国立故宮博物院所蔵『論語義疏』の 調査について

文化科学研究科・日本歴史研究専攻 高田 宗平

# 国立故宮博物院所蔵『論語義疏』の調査について

文化科学研究科・日本歴史研究専攻 高田 宗平

台北の国立故宮博物院所蔵『論語義疏』の調査は、『令集解』所引『論語義疏』の箇所について、本文の異同を主として、以下のテキストについて原本調査をした。

- ①読杜艸堂本
- ②新井本
- ③和学講談所本
- ④九折堂本
- ⑤有馬氏溯源堂本
- ⑥盈進齋本

台北の国立故宮博物院所蔵旧鈔本『論語義疏』の書誌については、阿部隆一氏により、調査されているが、旧鈔本『論語義疏』や日本古代中世典籍所引『論語義疏』の系統・性格の研究をおこなうには、旧鈔本そのものの原本調査が必須であると考えられる。

今回の調査は、『令集解』所引『論語義疏』の性格の研究の一環としておこない、『令集解』所引『論語義疏』について、先の六本の旧鈔本『論語義疏』と比較調査をおこなった。

調査の結果、『令集解』の『論語義疏』引用文については、六つの旧鈔本間には、大きな異同は認められなかった。しかし、⑥盈進齋本は、旧鈔本『論語義疏』の中で、北宋の邢昺正義の竄入しないテキストとして、注目すべき点がある。今回の調査によると、⑥盈進齋本の特徴は、刻本との朱筆校異の書入れが眉上にあること、他の①から④のテキストに比して誤写が多いことが認められる。なお、存卷四零本は、仮綴で保存状況がよくなく、閲覧できず、未調査である。

台北の国立故宮博物院所蔵旧鈔本『論語義疏』は、日本人によって書写された旧鈔本『論語義疏』の全体像の一部であり、今後、他の旧鈔本『論語義疏』との比較をおこなうことにより、旧鈔本『論語義疏』の系統や性格の解明に資する点が少なくないと考えられる。

また、旧鈔本『論語義疏』の系統や性格が解明されることにより、『令集解』をはじめとする日本古代中世典籍所引『論語義疏』の系統を解明することが可能になる。日本古代中世典籍所引漢籍の研究は、写本の系統や性格を十分に解明しないまま進められている場合が多く、全体としては日本史分野・中国学分野ともに研究が進んでいない。今回の調査の成果から日本古代中世に於ける学問史、及び漢籍受容史の一側面を実証的に研究する基盤が整備された。それを基礎とすることにより、奈良時代から室町時代の漢学史を中心とした学問史研究の未開拓の分野を切り開くことができると考える。

なお、詳細については、別稿を用意している。